

5-3 岐阜市における地域公共交通活性化・再生総合事業

岐阜市地域公共交通総合連携計画の目標

少子高齢化や環境問題、また、中心市街地の活性化等まちづくりと一体となった将来都市構造を誘導する交通体系をめざし、

1. 幹線・支線・コミュニティバス等が連携したバスネットワークの確立。
2. 幹線バスサービス(速達性・利便性)の向上により、岐阜駅から路線延長約10km圏を30分到達圏域とする。
3. 円滑な乗り継ぎ環境の整備を推進する。
4. バスロケーションシステム・ICカードの活用など利用環境の向上を図る。
5. ハイブリッドバス・ノンステップバスなどの導入により環境・バリアフリー対策を推進する。

20年度事業の実施状況

1. 事業の内容

- 1) 8幹線及び市街地循環線を核とするバス路線再編
岐阜大学・岐阜大学附属病院を核としたバス路線再編
- 2) バス路線の情報提供
バスロケーションシステム表示機設置(4基)、機能強化
- 3) コミュニティバスの充実
コミュニティバス実証運行、ICカード車載器導入
- 4) 環境対策・バリアフリーの推進
ノンステップバス(2台)、ワンステップバス(16台)、ハイブリッドバス(2台)の導入
- 5) わかりやすいバス案内
バス総合案内板の設置(JR岐阜駅に4基)
- 6) バス交通PR施策
市内バスマップ

岐阜市総合交通協議会

岐阜市、岐阜乗合自動車(株)、学識経験者、公共交通利用者、コミュニティバス地元代表、岐阜県タクシー協会、岐阜商工会議所、岐阜市商店街振興組合連合会、岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会、中部地方整備局、中部運輸局、岐阜県、岐阜県警察本部

【事務局】岐阜市企画部交通総合政策課内
058-265-4141



【公共交通ネットワークイメージ】

2. プロセス・創意工夫

1) 8幹線・市街地循環線を核とするバス路線再編

(岐阜大学附属病院をトランジットセンターとしたバス路線再編)

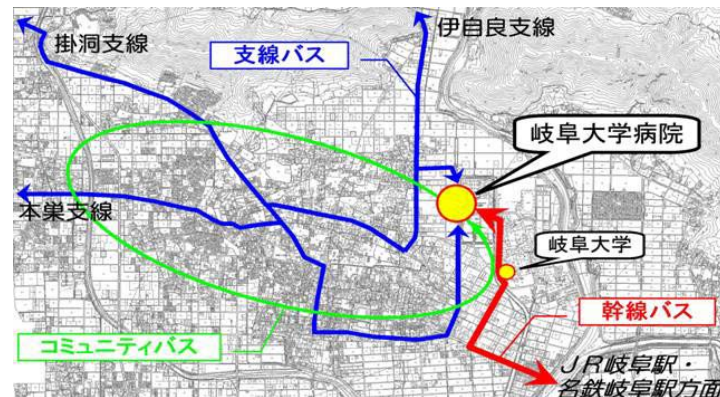
■幹線支線によるバス路線を構築するため、円滑な乗り継ぎ拠点を設置し、幹線と支線に路線再編を行う。

■高頻度かつ定時で運行するサービスを提供するため、岐阜大学病院をトランジットセンターとし、増便の実証実験を行うとともに幹線については急行バスを導入。

■乗り継ぎ抵抗の低減のため、ICカード利用の運賃を従前の通し運賃より安くした。

■ちらしなどを作成しPRを実施。また、路線再編出発式に併せバスの日のイベントを実施。

■トランジットセンターとなる岐阜大学病院の周辺において、パーク&バスライド、サイクル&バスライドの社会実験を実施。



【岐阜大学病院線路線再編図】

2) バス路線の情報提供

■バスロケーションシステムを発車順の時刻表示や外国語案内に対応したシステムに改良。

■バスロケーションシステム表示機を増設。

■インターネット・携帯電話端末を活用した乗り換え案内や料金案内、運行状況などの情報発信を、より簡単に検索できるようなシステムに改良。



【バスロケーションシステム】



【路線再編出発式の様子】



【路線再編のちらし】

3)コミュニティバスの充実

■路線バスと一体となった公共交通ネットワークの確立等を図るため新たに4地区でのコミュニティバスの実証運行を実施。

■路線バスとコミュニティバスとのネットワーク化のために、既に岐阜バスで導入されている「アユカ」及び岐阜市の「高齢者おでかけバスカード」といったICカードシステムをコミュニティバスにも導入し、利用拡大を図る。

4)環境対策・バリアフリーの推進

■誰もが乗り降りしやすいノンステップバス・ワンステップバス、また環境に優しいハイブリッドバスの導入を進める。

5)わかりやすいバス案内

■JR岐阜駅にバス総合案内板を設置し、目的地に応じたバス乗り場への案内を行ない、利用者の利便を図る。

■鉄道からの乗り継ぎに配慮し、主要な乗り継ぎ動線上に案内板を整備する。

6)バス交通PR施策

■路線図、系統情報、主要バス停の案内をまとめたバスマップを作製し、バスの利用促進を図る。



【路線バスとコミュニティバスの連携】



【ICカードシステム】



【バス総合案内板】



【ハイブリッドバス】



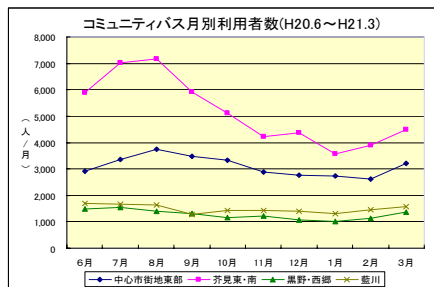
【バスマップ】

3. 事業費等(単位:千円)

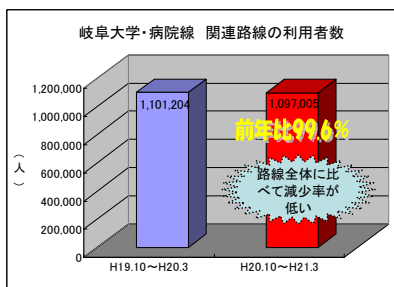
■総事業費	611,340		
●地域負担	391,452	●総合事業費補助金	219,888
○市	49,833		
○事業者	341,619		

4. 利用実績

■コミュニティバスの実証運行
利用者数は減少傾向にあり、一部では既にルート・ダイヤの見直しを実施したが、更なる利用促進の取り組みが必要である。



■路線再編実証運行
支線と幹線の分離に伴い、一部の路線で利用者が減少したものの、関連路線全体としては利用者への影響は少なかったといえる。



6. 今後の課題

- コミュニティバスの収支率改善と利便性向上。
- 車内運賃表示の利便性向上。
- 路線再編の推進
- ICカードを活用した乗り継ぎの利便性向上(バス、コミバス、鉄道)。
- 自動車利用から公共交通利用への転換促進。

5. 事業実施効果

■8幹線・市街地循環線を核とするバス路線再編(岐阜大学附属病院をトランジットセンターとしたバス路線再編)
路線再編の実施には、幹線バス路線の明確化や定時性の確保を図るというメリットがある一方で、支線と幹線の分離により、乗り継ぎ抵抗が生じることから、この低減を図るための対策を実施した。結果として、路線全体が利用者減少傾向にある中、路線再編関連路線は利用者の減少が抑えられ、今後の路線再編を実施していくための問題点の検証を行うことができた。

■コミュニティバスの充実

地域が主体となった運営協議会を立ち上げ、計画段階から運行実施に至るまで「市民協働の手作り」を基本に取り組んでいる。本格導入への移行については、市において補助上限額と補助率の目安を決めているが未達成であったため、来年度も実証運行を続け、より利用しやすく効率的な運行を目指す。

また、コミュニティバスへのICカード車載機の導入は、路線バスとの乗り継ぎの利便性を高め、路線バスとコミュニティバスのネットワーク化に寄与した。

■その他

ノンステップバス、ワンステップバス、ハイブリッドバスの導入により、環境対策とバリアフリーを推進した。

また、バスロケーションシステム表示機の改良及び増設、インターネット・携帯電話端末を利用した案内システムの改良、バス案内板の設置、バスマップの作製により、更なる利用者の利便性向上が図られた。